

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

- | | | |
|----|--------|-----------|
| 1. | 教育学部 | 3-1-1(教育) |
| 2. | 教育学研究科 | 3-2-1(教育) |

教育学部

- I 教育水準 3-1-2(教育)
- II 質の向上度 3-1-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学生の教育組織として教員養成4課程並びにリベラル型教育の1課程の計5課程を、教員組織として4学系19講座、3センターを配置し、当該大学の教育研究の目的を達成するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学生による授業評価及び教員による自己評価書の作成、学生の満足度・要望調査及びそのフィードバックによる学生の主体的学習の勧め、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)制度の導入による学生の学修支援・指導への活用等並びにそれを実質化するためのPDCAサイクルの整備を通して、教育内容、教育方法の改善を積極的に推進するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程を共通科目、専門教育科目に編成し、それぞれについて必修科目と選択科目に分け、さらに専門教育科目は各教育課程の趣旨に沿った配置になるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、教育現場からの要請である複数校種の教員免許状の取得を可能にするだけでなく、外国人児童生徒数の多い地域の特性を生かして、外国人児童生徒教育をテーマにした授業を開設している。また単位互換、転課程・転専攻、英語能力検定の単位化、インターンシップの推進、6年一貫教員養成コースを設置するなど、さらに3年次編入学、科目等履修生、研究生の制度を設けるなど、学生のニーズと社会の要請に配慮した教育課程を編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育を重視し全授業の平均受講者数は26名、教養科目でも38名であり、また授業においてはその内容に応じて情報機器活用、メディア利用、ティーチング・アシスタント(TA)活用の授業、また対話・討論型授業、フィールド型授業、ワークショップ型授業等の工夫が行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、ガイダンス時の学修指導、各学期24単位を上限とするキャップ制の導入、授業時間外学習のための課題の提示、附属図書館の土曜・休日の開館、自習室・情報コンセント整備室等の学習環境の整備、GPA制度の導入等、学生の主体的な学習を促すなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、1クラス当たりの受講者数平均が24名（平成19年度）であることと、比較的丁寧な教育を行っていること、また教員養成4課程では2校種の免許状を取得し、学芸課程の学生も45%が一種免許状を取得するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業評価によれば、学習目標の達成については60%以上の学生が達成できたとしている。卒業研究については80%以上の学生は能力が高まり、充実していたと答えるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、教員養成課程の卒業生の正規・臨時採用の教員就職率は74%であり、全国的に見れば、高い就職率を維持している。その他の職種、進学者を含めれば就職・進学率は90%を超えているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生対象のアンケート調査によれば、「卒業したことの満足度」「成績評価結果の納得度」に対する肯定的な評価をしたものはそれぞれ85%、79%であり、保護者対象の調査によれば、「本学の教育への満足度」「成績評価結果への納得度」に対する肯定的な評価をしたものはそれぞれ82%、69%である。卒業生の就職企業先からの卒業生への評価は、「幅広い教養」「前へ踏み出す力」「チームで働く力」はともに70%近い肯定的な評価を得るなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

I 教育水準	3-2-2(教育)
II 質の向上度	3-2-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科は13専攻で組織され、そこに教員と大学院学生を所属させ、教科に関わる専攻・分野はさらに教科教育学と教科内容学の2領域構成としている。研究指導教員数143名、研究指導補助教員95名に対して大学院定員は150名であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教務企画委員会が中期目標、教育課程、教育方法、実施体制に関する企画立案と実施に取り組み、大学院課程運営改善委員会が円滑な授業運営を担当し、さらに教育創造センターが授業評価、ファカルティ・ディベロップメント(FD)に関する企画・実施のリーダーシップを担うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教科教育専攻の場合、学校教育の基礎的素養を涵養するために、教育学・心理学分野から6単位、各専攻内の科目10単位、教科教育専攻科目4単位、特別研究科目4単位、自由選択科目6単位を定めて全体のバランスを取るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、平成17年度から小学校教員免許状を持たない大卒者に対して、大学院に在籍しながら小学校教員免許を取得できる授業科目を履修できる3年制の「小学校免許取得コース」を開設した。また、現職教員や社会人のニーズの応えるために、2年間分の授業料で3～4年在籍できる「昼夜開講コース」を設け、週3日間の夜間並びに土曜日・夏期休業期間に開講するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、実験・実習の授業形態の内訳は、講義 52%、演習 46%、実験・実習 2%となっている。学位論文作成については指導教員並びに必要なに応じて副指導教員の指導の下、計画的に研究・学習が行われるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、大学院生が討論や調査実験研究を積極的に行い、その成果を学外者へ提供する出前授業「学生自立支援事業」において自主的な学習を深めている。また大学院生を学部の授業のティーチング・アシスタント(TA)として活用して教育能力の育成を図ると同時に学生の主体的な学習を促すなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院生の修得単位数は平成 16 年度以降平均して 40 単位を超えている。大学院生の研究活動も積極的に行われていて、全国レベルの研究発表は 47 件（平成 18 年度）、50 件（平成 19 年度）あり、全国誌への論文投稿も 14 件（平成 18 年度）、15 件（平成 19 年度）あるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業ごとのアンケートによれば、「授業に満足」(95%)「積極的に参加」(96%)「教育的な力量」(85%)「専門的力量」(93%)「研究に役立つ」(87%)と高い満足度を示している。また研究指導に関する調査によれば、「講義内容に満足」(79%)「修士論文の指導」(80%)と、80%の者が大学院の学習に満足して

いるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 16 年度から平成 19 年度の研究科修了生の正規・臨時採用の教員就職率は 52%であり、企業・官庁等への就職 20%、進学したものの 10%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、大学院修了者の就職先の小・中学校校長・教頭からの聞き取り調査によれば、教材研究、指導実践、校務分掌の実施面において、良好な評価を得ていると判断できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 4 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。